

にんぎょうとうげ



発行：国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
バックエンド研究開発部門
人形峠環境技術センター 総務課
岡山県苫田郡鏡野町上齋原1550番地
電話 0868-44-2211 FAX 0868-44-2502

平成29年度 安全大会を開催

今年も7月1日から7日にかけて、第90回全国安全週間及び全国鉱山保安週間を迎えました。6月を安全週間準備月間として様々な行事を計画し、6月9日には安全衛生委員会及び鉱山保安委員会の委員14名が22箇所の捨石たい積場の巡視を行うなど、様々な活動を通して、安全管理や危機管理に対する心構えを新たにしました。

平成29年度 全国安全週間スローガン

「組織で進める安全管理 みんなで取り組む安全活動 未来へつなげよう安全文化」

全国安全週間・全国鉱山保安週間の7月3日にセンター幹部等による安全祈願を実施し、恒例の安全大会を体育館にて協力会社を含め約180名の従業員等が参加する中、開催しました。



青瀬所長による訓示

安全大会においては、理事長メッセージ、中国四国産業保安監督部長からのメッセージ(代読)、青瀬所長の訓示、協力会社を代表して(株)建美の幡司専務取締役による決意表明がありました。

続いて、保安改善提案と保安標語について青瀬所長から表彰が行われました。また、平成28年1月の人身災害、平成28年10月の鳥取県中部地震等を踏まえて様々な状況下における傷病者の搬送方法を習得するため、担架、毛布及び作業着を用いて演習を行い、知識の向上を図りました。



最後に、森本環境研究課技術副主幹の音頭で全員による「ゼロ災害でいこう ヨシ！」の指差し唱和を行い、今年度の安全大会を終了しました。

安全週間が終わっても我々の安全活動に終わりはありません。昨年事故の反省として基本動作を守り、センター全員が一つになって無事故・無災害を継続するとともに、安全意識の向上を図り、より一層の安全文化の醸成に努めて行きます。

(安全管理課)

人形峠自然百景

『ささゆり』

ユリ科ユリ属の球根植物。本州中部から九州に自生する日本固有のユリで、「ヤマユリ」とも呼ばれ、近年、野生種は少なくなってきたことから、準絶滅危惧種に指定されている地域もある。

5月から初夏にかけて淡いピンク色の花を咲かせ雄しべに芳香がある。葉や茎が笹に似ていることからこの名がある。

人形峠センター内では、東門に向かう道路沿いで見られる。

ささゆり



シリーズ 人形峠 今昔物語

～第2回「鉱山活動による活況期(1960～75年頃)」～

第1回の「人形峠 今昔物語」では、1960年頃と現在の人形峠の風景を比較してみました。第2回は、鉱山活動盛んな1960年代前半からウラン濃縮事業が立地される前の1975年頃の人形峠をご紹介します。



1965年



現在

倉吉鉱山(方面・麻畑地区)や人形峠鉱山(神倉、長者、中津河地区など)を中心にウランの探鉱・採鉱が行われ、構内には試験製錬所も建設されました。1965年8月には、皇太子殿下(今上天皇)の人形峠行啓があり、当時、構内にあった従業員社宅の家族が総出でお迎えしました。

試験製錬所上部の峠2号坑口は解体・閉止し、ウラン濃縮パイロットプラント(現在の濃縮工学施設)を建設しました。また、試験製錬所も2002年までに解体し、解体した資機材を解体物管理施設(中央右の白い建家)にて保管しています。



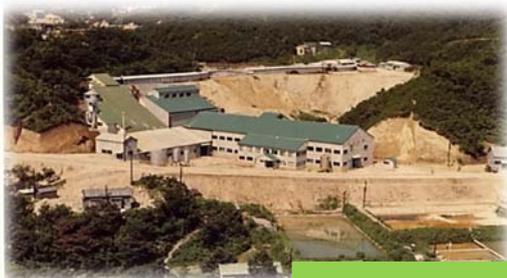
峠2号坑口付近(後に、濃縮施設の建設地に)



坑内での掘削作業



試験製錬所からの初出荷式(1971年3月、旧事務所前にて)



1965年頃の構内風景(従業員社宅)



この時期の人形峠の象徴であった試験製錬所